

横浜市感染症発生動向調査報告（令和7年1月）

《今月のトピックス》

- インフルエンザは流行が継続しています。
- 百日咳の報告が急増しています。
- 感染性胃腸炎の報告数が増加しています。

◇ 全数把握の対象 <2024年12月23日～2025年1月19日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	5件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3件
レジオネラ症	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	14件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2件	破傷風	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	百日咳	29件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件		

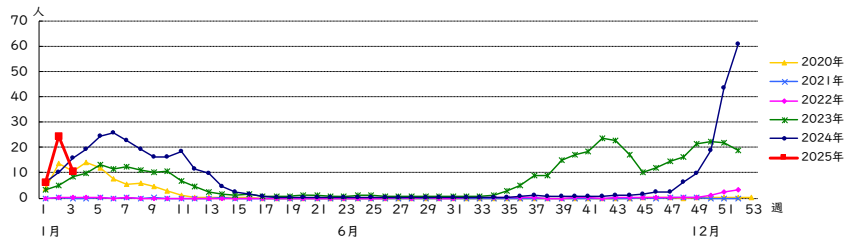
1. **腸管出血性大腸菌感染症**:20歳代～60歳代で、O血清群はO26が1件、O128が1件、不明が3件です。経口感染と推定される報告が1件、経口感染または接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
2. **レジオネラ症**:70歳代～80歳代で、肺炎型が3件、ポンティアック熱型が1件です。水系感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
3. **アメーバ赤痢**:50歳代で、腸管アメーバ症です。感染経路は性的接触(詳細不明)と推定されています。
4. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:いずれも80歳代で、以前からの保菌と推定される報告が1件、以前からの保菌または医療器具関連感染と推定される報告が1件です。
5. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:70歳代で、血清型はA群です。感染経路は創傷感染と推定されています。
6. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:70歳代で、感染経路は性的接触(詳細不明)と推定されています。
7. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70歳代～80歳代(ワクチン接種歴不明3件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
8. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回1件、3回1件、無4件、不明8件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が5件、飛沫感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が8件です。
9. **梅毒**:20歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件、無症状病原体保有者6件です。性的接触による感染と推定される報告が13件(異性間10件、詳細不明3件)、感染経路等不明が1件です。
10. **破傷風**:80歳代(ワクチン接種歴無)、感染経路等不明です。
11. **百日咳**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回20件、無3件、不明6件)で、家族内感染と推定される報告が7件、周囲の流行と推定される報告が8件、感染経路等不明の報告が14件です。

報告週対応表	
2024年第52週	12月23日～12月29日
2025年第1週	12月30日～1月5日
第2週	1月6日～1月12日
第3週	1月13日～1月19日

◇ 定点把握の対象

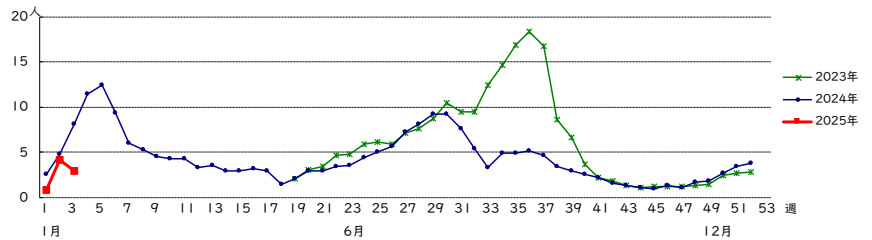
1 インフルエンザ

2024年第50週に18.91で流行注意報の発令基準(10.00)を、第51週に43.15で流行警報の発令基準(30.00)を上回りました。2025年第3週は10.38です。詳しくは横浜市インフルエンザ流行情報12号をご覧ください。



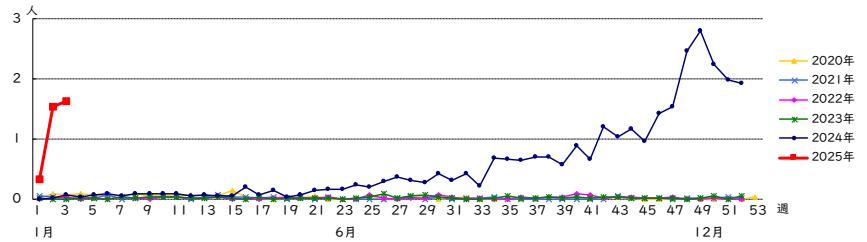
2 新型コロナウイルス感染症

2024年第5週に1回目(12.45)、第29週に2回目(9.15)のピークを迎え、減少後は横ばいの状態が続いていましたが、第48週以降増加に転じています。2025年第3週は2.85です。



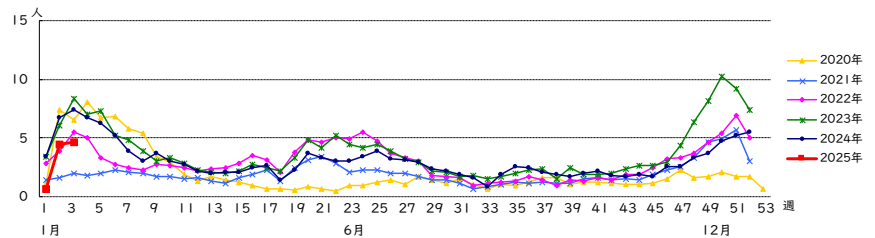
3 伝染性紅斑

2024年第48週に流行警報発令基準値(2.00)を上回りました。第49週(2.79)にピークを迎え、以降減少傾向です。2025年第3週は1.62です。



4 感染性胃腸炎

2024年第46週以降増加傾向に転じています。2025年第3週は4.69です。



5 性感染症(2024年12月)

性器クラミジア感染症	男性:22件	女性:15件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:11件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:13件	女性:2件	淋菌感染症	男性:11件	女性:3件

6 基幹定点週報

	第52週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	1.00	0.50	1.50	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(2024年12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ(内科)定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

2024年第52週及び2025年第1週～第3週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点31件、内科定点9件、基幹定点3件でした。

2月4日現在、表に示した各種ウイルスの分離28株と遺伝子6件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第52週～2025年第3週)

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第52週及び2025年第1週～第3週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感冒
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	23 -	1 -	1 -	1 -
インフルエンザウイルス B型 (ビクトリア系統)	1 -			
アデノウイルス 2型		1 -		
アデノウイルス 型未同定		- 1		
ヒトコロナウイルス OC43型		- 2		
ヒトメタニューモウイルス		- 1		
RS ウイルス		- 1		
ライノウイルス				- 1
合計	24 -	2 5	1 -	1 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024年第52週及び2025年第1週～第3週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症7件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症4件、侵襲性インフルエンザ菌感染症3件、侵襲性肺炎球菌感染症1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症1件でした。小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査（2024年第52週及び2025年第1週～第3週）

菌株同定	項目	検体数	血清型等
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	7	O157 : H7 VT1 VT2 (1)
			O157 : H7 VT2 (1)
			O26 : H- VT1 (1)
			O128 : H2 VT1 VT2 (1)
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4	Og69 : Hg11 VT1 (1)
			Og109 : Hg21 VT2 (1)
			OgUT : Hg21 VT1 (1)
			<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)
保健所	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
			<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)
保健所	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能 (3)
			<i>Streptococcus pneumoniae</i> 35F (1)

分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	レジオネラ症	1	喀痰	レジオネラ属菌 培養 陰性 (1)

小児サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	A群溶血性レンサ球菌 T4 陽性 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】